

人と防災未来センター見学での学び

2年 山崎 義夫

令和元年10月18日に、災害看護の院外研修で神戸市の人と防災未来センターに行ってきました。

人と防災未来センターは、阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に活かし、減災社会の実現を目的としている施設です。研修では、震災追体験フロアで阪神淡路大震災の地震を再現した映像で体感し、震災の記憶フロアでは数々の震災の資料が展示されており、震災直後の記録から復興に至る被災者の思い、被災地の変化の過程など、市民から寄せられた写真や資料、証言から、震災の被害について理解が深まりました。また、被災者による講和を聴講し、実際にどのようなかたちで復興が行われたか、震災を乗り越えてきたのかを知り、東日本大震災のドキュメンタリー映像、津波体験を通して改めて自然災害の恐ろしさを感じました。

日本は島国であり台風を始め自然災害が起こりやすく、近年は豪雨で冠水による浸水被害が多発しており、どこで災害が起こるか分からない状況です。今回、研修センターで自然災害は防げなくても、耐震性や液状化について各個人が理解すること、予防行動をとることや、災害発生時に迅速に対応できるよう普段から災害に対し意識を持つことで災害による被害を減らせることが分かりました。

また、災害発生時の医療者の役割として、限られた資源の中で医療を行うために看護師はトリアージを行い一人でも多くの被災者を救うために重要な役割を持っていることも分かりました。災害により現在も仮設住宅での生活をしいられたり、大切なものを失ったり、心的外傷ストレスを抱えて生活している方もいる。そんな被災者に寄り添いこころのケアをしていくことも被災者の支えとなり必要なことだと思います。

研修を終えて、今後、私は災害についての認識、学習を深め、自分を守る行動がとれるだけでなく、ボランティア活動にも積極的に参加し、被災者や困っている人の支えになれるような看護師としての役割も果たしていきたいと思います。

